vinetur

Sazerac、Au Vodkaの3億ポンド買収で合意

Charlie MorganとJackson Quinnは、売却によりそれぞれ少なくとも7,500万ポンドを受け取る見通し。

2026年9月21日（月）



ウェールズの学校で親友だった2人が、高校卒業後まもなく立ち上げたプレミアム・スピリッツブランドを売却した。この取引により、2人それぞれに少なくとも1億ドルが入る見通しだ。

事情に詳しい関係者とBloombergが報じた試算によると、31歳のCharlie Morganと33歳のJackson Quinnは今週、ケンタッキー州を拠点とするSazeracにAu Vodkaを3億ポンドで売却することに合意した。取引条件に基づくと、2人の創業者は、10年以上にわたって事業を築き上げた末に、それぞれ少なくとも7,500万ポンド、約1億100万ドルを受け取る見込みだ。

支払い額はさらに膨らむ可能性がある。非公開の財務詳細を理由に匿名を求めたこの取引に詳しい関係者によると、MorganとQuinnは将来の業績連動型支払いとロイヤルティを通じて、それぞれ最大1億ポンドを得られる可能性があるという。Au Vodkaの広報担当者は、創業者の取り分についてのコメントを控えた。

Morganは声明で、Sazeracの規模がブランドを現在の市場を超えて成長させる助けになると述べた。「Sazeracの世界的なリーチ、資源、専門性は、Auを新たな消費者に届け、米国を含む国際市場での存在感を高めるための強固な基盤を提供してくれる」と彼は述べた。

今回の売却は、2015年にスウォンジーで始まった同社にとって大きな転機となる。そこで育った幼なじみのMorganとQuinnは、19歳と21歳のときにこのブランドを立ち上げた。当初の目的は控えめで、地元のバーにウォッカを置いてもらうことだった。だが実際には、金属光沢のあるゴールドボトル、鮮やかなパッケージ、ラズベリー、スイカ、バブルガムなどのフレーバー・ウォッカで、競争の激しい世界のスピリッツ市場で存在感を示す事業を築き上げた。

Au Vodkaは、若い酒類ブランドがオンラインで注目を争っていた時期に、ソーシャルメディアを徹底的に活用することで急成長した。同社は拡散力のあるマーケティング、TikTok動画、著名人の起用を通じて、英国をはるかに超えて知名度を高めた。元サッカー選手のRonaldinhoやラッパーのGucci Maneを含む著名人の支援は、初期のブランド認知向上に役立った。

同社のプロモーションの一部は、売上と同じくらい注目を集めることを狙っていた。当時の報道によると、YouTuberのJake Paulは、Auのボトルを一時的に腕にタトゥーとして入れる代わりに20万ポンドを受け取ったという。別のキャンペーンでは、ヘリウム風船を使ってボトルを成層圏まで飛ばし、飲み物を理想的な温度まで冷やす取り組みだと位置づけた。

Morganは、ブランドを立ち上げる前から一部の英国のスポーツファンには知られていた。2013年、17歳だった彼は、Swansea Cityの試合でボールボーイを務めていた際、当時Chelseaに所属していたEden Hazardに蹴られた。試合球をめぐるこのサイドラインでの一件は広く繰り返し報じられた。　この出来事は英国で大きな見出しとなり、Morganに早い段階で、しかも異例の形で、公の注目を浴びる経験をもたらした。

Auが拡大するなか、同社はより大規模な資金調達、そして最終的には売却に向けた準備を進め始めた。投資家の関心を探るため、PwCを起用した。2023年末には、Metric Capital Partnersがハイブリッド・キャピタル・パートナーとして参画し、少数持分と引き換えに負債と資本を提供する形で、企業価値を約1億5,000万ポンドとする取引に加わった。同社はまた、創業者主導のスタートアップから、より組織化された消費財ビジネスへ移行する中で、DiageoとUBSの元幹部を取締役会に迎え入れた。

創業者たちは以前から、Auをはるかに大きな国際的プレーヤーにしたい意向を明確にしていた。2022年のインタビューで、MorganとQuinnは、将来的に企業価値を10億ドルに達させ、米国市場で地位を確立したいと語っていた。その年、同社は缶入りのRTDカクテルを発売し、2023年には米国市場に参入した。会社によると、初週に5万本を販売したという。

財務書類によると、多くの大手飲料企業が苦戦するなかでも、同社は成長を続けていた。英国のCompanies Houseに提出された書類によれば、Au Vodkaの昨年の売上高は8,280万ポンドで、前年の6,500万ポンドから増加した。この成長は、若年層の消費者と裁量支出に依存するプレミアムブランドを中心に、世界のスピリッツ業界が低調だった時期に実現した。

飲料市場調査会社IWSRによると、2024年から2025年にかけて、米国や英国を含む主要市場でウォッカの数量は2%減少した。同期間のスピリッツ全体の数量は3%減少し、低迷の一因は中国だった。こ

の広範な減速により、大手ビール・ワイン・スピリッツ企業の時価総額から数千億ドルが失われ、DiageoやPernod Ricardを含むメーカーはコスト削減や新製品投入を迫られている。

こうした状況のなか、Auの成長は際立っていた。その成功はまた、Sazeracにとって、需要がより底堅い事業分野を強化する機会にもなった。Southern　ComfortやBuzzBallzを傘下ブランドに持つSazeracは、M&Aを積極化している。競合Brown-Formanとの統合を試みたが実現せず、事情に詳しい関係者によれば、ドイツのスピリッツメーカーBerentzen-Gruppeの買収の可能性も検討してきた。

Sazeracに近い関係者によると、Auの買収は、同社が英国での地位をさらに強化するのに役立つという。同社は英国を重要な戦略市場とみなしている。今回の取引はまた、Auが重点的に投資してきたウォッカとRTDカクテルの両分野で、Sazeracの存在感を広げることにもなる。

合意に詳しい関係者によると、MorganとQuinnは売却後も事業に関与し続ける見通しだ。こうした形は、次の成長段階で買い手が創業者の知名度、創造的な方向性、そして製品の顧客層に関する深い知見を維持したい消費者ブランドの買収では一般的だ。

この取引はまた、英国の消費者向けブランドが、単独で世界的巨大企業になる前に海外企業へ売却される最新の例でもある。Innocent Drinksは2013年にCoca-Colaへ売却され、チョコレートメーカーのHotel Chocolatは2024年にMarsに買収された。Auは、スウォンジーの地元バー向けブランドから、英国でもよく知られたプレミアム・ウォッカブランドの一つへと成長し、その仲間入りを果たした。